



11月29日に山田幼稚園で開催された英語特区のオープンスクール。しゃべれる英語を身につける【写真左】。12月5日、山田地区で行われた一括交付金制度の説明会。さまざまな意見が出された【写真右】



◆一括交付金制度への変革

議長 昨年、長年の懸案だった委員会のリニューアルを行い議会専用の部屋を作りました。この部屋を先進地の取り組みの研究や、総社の発展のための議論の場として有効に活用していきたいと思っています。

市長 今年目指している大きな改革が、昨年から議論を進めている一括交付金制度です。ひも付き補助金制度からひもを取っ払い、地域の自由意志で使い道を考え、実行するこのシステムを4月からぜひやりたいと思っています。

議長 市民への丁寧な説明と話し合いを重ねていくことが必要でしょう。

市長 地域でできることは地域でやっていただき、将来的には市役所の仕事を減らす。地域と市が役割分担をすれば職員数も減らせ、小さな市役所にとできると考えています。

議長 市民の声を大切に、皆さんの協力が得られやすい制度をつくることが重要だと思います。

市長 そうですね。きめ細やかに、粘り強く議論していきます。地方主権の先駆けとなるような、住民自身が考えて地域を盛り上げていく「住民本意の仕組みづくり」をやっていきたいです。これから将来、自立して

いけるまちに生まれ変わらなければならぬと思っています。

議長 市長がやろうという政策は他の自治体にないものが多いと感じます。総社の政策が全国から注目され、実際、議会に多くの人が視察に来られます。しかし、他の自治体の模範となるのはよいですが、そろそろ息切れしてくるのではないですか。

市長 雪舟くんや障がい者千人雇用などは、担当課にも全国から視察に来られています。いろいろな政策を打ち出していますが、しんどいからといってスピードを緩める訳にはいきません。顎が上がっていないか見極め、足元を見て走りたいと思います。

議長 スピードの出し過ぎには注意が必要でしょう。地に足をつけて堅実に歩き進めることも重要です。

◆再生農地等交換特区へ

市長 昨年、「再生農地等交換特区」を内閣府に申請しました。再生農地等交換特区とは、耕作放棄地を再農地化した場合に、それに見合った面積を企業誘致に充てられるよう、農地転用制限を緩和できる権限を市に与えるというものです。

議長 総社に進出したい企業が数多くあると聞きます。企業誘致できる土地を確保するための方策ですね。

市長 企業が来たいと言っている農地には厳しい規制があり、企業が利用できる土地がありません。3月末までには国の方針が決定されます。地方主権を勝ち取りたいですね。

◆英語特区をスタート

市長 さらに、4月スタートを目指しているのが「英語特区」です。山田幼稚園、維新幼稚園、維新小学校、昭和小学校、昭和中学校で、しゃべれる英語教育を行います。

議長 山田と維新の幼稚園は入園を予定している子どもの数が少なく、園児数が減少傾向だと聞いています。

市長 入園する子どもがいらないなら廃園にすればいいという考えもありますが、それは安易な考えです。新たなアイデアで特色ある幼稚園に生まれ変わらせたいと思っています。

議長 昨年度文科科学省は2020年度をめどに、小学校の英語教育の開始時期を現行の5年生から3年生に引き下げ、5年生からは正式な教科にする方針を決めていますね。

市長 やはり世界で活躍する人材を育てるには、早い時期から基礎的な英語力を身につけさせることが必要だということでしょう。総社の英語特区では外国人の指導者を投入してしっかりやっていきます。

◆今年の抱負

議長 議会ではこれまで議会改革を進めてきました。昨年は総社市議会基本条例を制定することができましたし、議会報告会を市内各地域で開催しました。一般質問での一問一答方式も定着してきたと感じています。

市長 議会が真剣に改革に力を入れてきたことに感謝します。議論を深め、そして議論の末には市民に成果を出していく、市民の負託に応えていかなければならないと思っています。

議長 そうですね。責任を果たせる議会を実現していきましょう。また、私自身、議長として大切なのは、「平常心」だと思っています。議長はまとめ役。平常心を肝に銘じ、議員24人と議会力を発揮していく、そんな一年にしたいと考えています。

市長 今年一年を、「住民参加型のセカンドステージ」と位置づけています。これまでよりワンランクアップしたセカンドステージを目指したいと思っています。そこにたどり着くまでには、軋轢や障害、難題がつかまとうと思っています。しかし、それらに勇気をもって立ち向かい、議会ともかんかんがくがくと議論を交わしながら進めていきたいと思っています。今日は、ありがとうございました。

これまでよりワンランクアップした
住民参加型のセカンドステージを目指したい
——片岡聡一 市長

「平常心」で議員24人と議会力を発揮したい
——剣持堅吾 議長